

夜念仏供養結衆交名板碑



〔指定年月日〕昭和五九年三月三十一日
〔種別〕有形文化財（古文書）
〔名称〕夜念仏供養結衆交名板碑
〔点数〕一基
〔所有者等〕光明院
〔所在地等〕上荻二一―三

夜念仏供養結衆交名板碑

長さ八三cm、最大幅二八cmで、上下にやや欠損がみられ、表面にはすり傷、磨滅がある。碑面の文字は一部判読困難な箇所もある。阿弥陀種子を主尊とし、光明真言二三文字をもつて月輪としている。脇侍に勢至と観音、前机に燭台（ローソクをともしている）、香炉、三茎華瓶を供え、中央に「夜念仏供養逆修敬白」と造立の趣旨を刻み、その左右に「文明三年（一四七一）辛卯十月十三日」と記す。交名は左右に三人あて一行ずつとし、六名ないしは七名と思われるが、確認はしがたい。

かつての武蔵国地域内の夜念仏板碑は主として荒川下流域に分布しており、杉並区域はその西限にあたっている。

この板碑はそうした板碑群の中では年代的にも形式的にも古いものに属し、かつ「十月十三日」の月日から「十三夜」の「月待」と関連すると考えられる点でも注目される。

本板碑は室町時代に杉並地域で夜念仏信仰が行われていたことを示す貴重な資料で、記録性も高く、学術的な価値も小さからぬものといえる。

【文化財所在地】

